

# 榊原病院

## Monthly

### Vol.63

### 2023.June

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である  
The most important person in this hospital is the patient.

独立行政法人国立病院機構 榊原病院  
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital

## 院長

村田 昌彦(むらた まさひこ)

1962年生まれ

1991年富山医科薬科大学医学部卒

1996年同医学部大学院卒

2014年国立病院機構北陸病院精神科部長

2015年国立病院機構榊原病院副院長を経て、2018年国立病院機構榊原病院院長就任。

日本司法精神医学会理事。



病院理念 この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

## 榊原病院に赴任して

看護部長 加納 周美

榊原温泉一帯は、古くは七栗上村と呼ばれ、かの清少納言が「枕草子」で『湯はななくりの湯 有馬の湯 玉造の湯』と讃えたことでも知られているそうです。温泉好きの私は、すでにこの温泉を堪能し、再訪したい湯めぐりの一つになっておりました。そんな榊原温泉の中にたまたまむ当院に、令和5年4月着任しました看護部長の加納と申します。

さて、この5月には新型コロナウイルス感染症は5類へと変更され、世界的にもこのウイルスの脅威は徐々に後退しつつあるように見えます。しかし、この感染症は私たちの生活全てに、そしてこの臨床現場に本当に多くの変化をもたらしました。あらためて私たち医療者と患者さん、そしてご家族の方々との情報共有やコミュニケーションの大切さを痛感する毎日でした。

しかしどんなときも、当院の理念である『この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である』をかけた、全病院職員がぶれることなく、目の前のやるべきことをしっかりと行う、これに尽きるのではないかと考えています。災害時の対応として、災害派遣精神医療チーム(DPAT)も日々研鑽を積んで有事に備えています。今回の新型コロナウイルス感染症対策においても、帰国者宿泊施設や臨時応急施設への支援活動を行いました。

このように一般の精神科の患者さんはもちろんのこと、児童・思春期の患者さんや難治性の統合失調症の患者さん、徘徊や暴力などの周辺症状が目立つような認知症患者さんや強度行動障害を伴う患者さん、そして医療観察法による処遇を受ける患者さん、そして有事の際にも、そのとき目の前にある必要とされる医療を今後も提供していきたいと考えています。

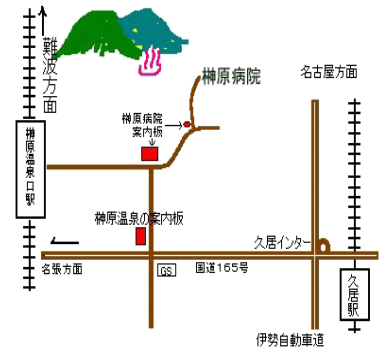
着任初日、榊原病院の敷地に一歩足を踏み入れると、大きな枝垂れ桜の温かいカーテンに吸い込まれるように、自然と歩む足どりが軽くなりました。不思議なものです。そんな榊原病院という、大きな大きな温かいカーテンで包み込むべく、治療を受ける人を大切に、日々精進していきたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 診療科

- ・ 一般精神科
- ・ アルコール・薬物依存症
- ・ 専門外来
- ・ こころのリスク外来

## 病床数 175床

- ・ 精神科病棟 157床
- ・ 医療観察法 18床
- ・ 強度行動障害ユニット



電車・バス/ 近鉄久居駅下車 三交バス  
(車庫前行き) 約30分

自動車/ 久居インターより約20分

マイクロバス/ 久居駅より直通バス(約25分)



病院マスコットキャラクター「さかきっくん」



## 地域医療連携室だより

### 〈医療福祉相談のご案内〉

経済的な心配、福祉サービスの利用、退院後の生活など病気によって生じた生活上の困り事について、精神保健福祉士がご相談に応じます。相談をご希望の方は、主治医、看護師及び医事受付まで申し出てください。

## ゆうはあと訪問看護ステーション

令和元年6月に「ゆうはあと訪問看護ステーション」を開設しました。利用者様が地域で安心して暮らしていけることを目標として訪問看護を提供しています。症状の観察や相談・お薬の管理・通院継続の支援・対人関係・コミュニケーションへの支援など、心身の回復のお手伝いを目的として行っています。

私たち「ゆうはあと」は、あなたの療養、そして暮らしを支えます。少しでも豊かに、少しずつ豊かになりますようにここで支えます。

## 治療抵抗性精神疾患への医療

### 〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、令和5年5月までに全症例は140例となりました。新規導入は4月2例、5月0例でした。順次投与を開始する予定です。クロザピン通院専門外来も開設しております。



## 認知症医療、こころのリスク外来

### 〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に認知機能が低下することや、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害は、若年の方にも見られます。

したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方に認知症が発症する傾向が多く見られます。身体的な問題については、法人内病院である三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

### 〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



## デイ・ケア案内



デイケアは南2階で月、火、水、金の9:30から15:30まで活動しています。

日中に通う場所を持つことで、生活リズムを整えたり、仕事や作業所に通う体力を獲得したりする効果があります。それぞれの方がリカバリーに向けて、プログラムに取り組んだり、他の方々と一緒に活動したりして、進んでいかれます。

デイケアを利用してくださる方は、1日あたり10人～20人です。運動、ヨガ、レクリエーションゲーム、コミュニケーションの勉強、SST、カラオケ、アート等様々なプログラムがあります。特にSSTでは、参加される方々が話して下さる日々の工夫をお聞きして、「そういう方法があるか!」と驚くことがしばしばあります。デイケアには、休息したり、本を読んだり、ご自身のペースで過ごしておられる方もいます。興味を持たれた方は、ぜひ一度見学にお越しください。



今の花壇の様子です。  
今年もアマリスが大きな花と開きました。



ある日の散歩の風景です。

ホームページに「デイケアでの感染予防プログラムの学びと実践の取り組みについて」を掲載しています。

デイケア案内、プログラム表については、こちらをご覧ください。



## 栄養コラム



夏本番を前に！今のうちから熱中症対策をしましょう。

突然ですが、『暑熱順化』（しょねつじゅんか）という言葉を知っていますか？これは体が暑さに慣れることを指している言葉です。6月は梅雨で湿度が上昇するとともに気温もぐんぐん上がっていく時期です。ウォーキング・筋トレ・入浴時に湯船につかるなど、汗をかくことで本格的な夏を迎える前に、暑さに体を慣れさせましょう。また、熱中症予防には水分補給が不可欠です。のどが渇いたと感じたときは、既に体が脱水状態となっています。のどが渇いていなくても「こまめに」水分補給をする習慣をつけましょう。また、汗を沢山かいたときは塩分（ナトリウム）を含んだ飲み物（スポーツ飲料など）が効果的です。ただし糖分を含むものが多いため、飲みすぎには注意しましょう。